



TITLE:

歐洲戰後ノ人口 (まるさす生誕百五
十年記念号)

AUTHOR(S):

小川, 郷太郎

CITATION:

小川, 郷太郎. 歐洲戰後ノ人口 (まるさす生誕百五十年記念号). 經濟論叢
1916, 2(5): 1-34

ISSUE DATE:

1916-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/127009>

RIGHT:

歐洲戰後ノ人口

法學博士 小川 郷 太 郎

- 目次
- 第一款 歐洲戰後ニ於ケル人口ノ減少——一、戰爭ニ因テ生スル人口ノ缺陷——二、戰時ノ人口補充力——三、戰後ノ人口補充力——四、人口減少ノ分析
 - 第二款 歐洲戰後ノ人口減少ノ結果——一、人口減少ノ經濟的結果——少年勞働老年勞働——婦人勞働——移民問題——二、人口減少ノ社會的結果
 - 第三款 歐洲戰後ノ人口政策

余ハ本論文ニ於テ、歐洲戰後ニハ人口ハドウナツテ行クカト云フコトヲ豫想シ、ソレニ關連シテ人口問題ハドウナルベキデアラウカト云フコトヲ豫想シテ見タイ、豫想ハ學問上價值ナシト云フモノモアラウガ、余ハ必スシモソウデハナイト信ズル、余ハ現在迄ノ事實ニ徴シテ將來ヲ考ヘントスルモノデ、漫リニ空想ニ耽ラントスルノデナイ、併シ將來ヲ説クカラニハ精確デ寸毫モ違ハナイヤウナコトハ云ヘナイ、余ノ云ヒ得ルハ大體論ニ過ギス。

余ハ先ツ順序トシテ歐洲戰後ニハ人口ガドウナルカ、ト云フコトヲ研究セネバナラス、次ニソレヲ分析シテ人口ノ組立ニ如何ナル變化ヲ來スヘキカラ見、ソレガ經濟上社會上ニ如何ナル影響ヲ及ボスヘキカラ明ニシ、ソレヨリ判斷シテ戰後ニハ如何ナル人口政策ガ採用セラレルデアラウ

カラ考ヘテ見タイ。

第一款 歐洲戰後ニ於ケル人口ノ減少

歐洲戰後ノ人口ハドウナルカト云フコトヲ豫想セントスレハ、先ツ戰爭ガ終熄スル際ノ人口ハ、ドウナルカラ調ベネハナラヌ。

歐洲戰爭ハ多クノ人ヲ殺シツツアル、まるさすノ所謂人口増加ノ直接ノ妨ゲ、積極的ノ妨ゲガ現レテ來タノデアル、余ハ之ヲ戰爭ニヨリテ生スル人口ノ缺陷ト名ツケタイ、然ルニ他方ニハ此缺陷ヲ補充スル力モ働イテ居ル、故ニ戰爭ガ終熄スル際ノ人口ハドウナルカト云フコトヲ判ゼントセバ、戰爭ニヨリテ生スル人口ノ缺陷ト之ヲ補充スル力トヲ比較シテ見ネバナラヌ。戰爭終熄ノ際ノ人口ハドウナルカラ知レバ、次ニ戰爭終熄後ニ人口ハ、ドウナルカラ明ニセネバナラヌ。

第一、戰爭ニ因テ生スル人口ノ缺陷

余ハ茲ニ戰爭ノ爲メニドノ位ノ人が失ハル、カラ研究セウト思フ。

戦死者ノ數ヲ明ニスルコトハ必要デアルガ、併シ、ソレハ、今日ニ於テ仲々精確ニ知リ難イ、各交戰國ハ戦死者ノ名ヲ公表シテ居ルモノモアルガ、悉ク信ズルコト出來ヌ、假令今日迄ノモノガ知レタニセヨ、戰爭終結迄ニドレ位死スカハ之ニヨリテ判斷スルコト出來ヌ、併シソウハイフモノ、吾々ハ、戦死者ガ多イト云フ丈デハ満足ガ出來ヌ、何カ、多少、數デ示シ得ラレネバナラヌ。

戦死者ノ數ニ就テハ新聞雜誌ノ傳フル所、一様デナイ、今、世人ノ比較的信用ヲ置クモノニ就テ調テ見ヤウ、先ツ英國ノえこのみすと雜誌ノ計算スル所ヲ引合ニ出シテ見ルト左ノ如クデアル。

聯合軍側

英吉利	佛蘭西	露西亞	伊太利	白、塞	合計
死傷并ニ行衛不明 800,000	死傷并ニ行衛不明 2,000,000	死傷并ニ行衛不明 2,000,000	死傷并ニ行衛不明 500,000	死傷并ニ行衛不明 250,000	死傷并ニ行衛不明 8,800,000
戦死者病死者并ニ不具者 250,000	戦死者病死者并ニ不具者 150,000	戦死者病死者并ニ不具者 200,000	戦死者病死者并ニ不具者 150,000	戦死者病死者并ニ不具者 150,000	戦死者病死者并ニ不具者 2,000,000

同盟軍側

獨逸	奧匈國	土、勃	合計	兩軍總計
死傷并ニ行衛不明 2,000,000	死傷并ニ行衛不明 2,100,000	死傷并ニ行衛不明 200,000	死傷并ニ行衛不明 4,300,000	死傷并ニ行衛不明 12,100,000
戦死者病死者并ニ不具者 250,000	戦死者病死者并ニ不具者 250,000	戦死者病死者并ニ不具者 150,000	戦死者病死者并ニ不具者 650,000	戦死者病死者并ニ不具者 2,650,000

コレデ見ルト戦争ニヨリテ永久ニ失ハレタル人即チ戦死病死并ニ不具トナリタルモノノ數ハ兩軍デ約四百萬人ニ過ギヌ、コレハ同雜誌ガ best materials available カラ estimate シタトカ云ツテ居ルモノデ、戦争ガ本年三月迄續クトシテ計算シタモノデアル、若シ之ヲ月割ニシテ見ルト一ヶ月平均二十萬人宛、戦争ノ爲メニ失ハレツツアリト云フコトガ出來ル、人ノ損失ハ案外少イ様ニ感セラルル。

處ガ戦争ハ本年三月デ濟ンデ居ナイ故ニ Economist ノ計算方法ニヨルモ尙之ヨリ多クノ死亡者ヲ出スコトトナラ子バナラヌ、若シ戦争ガ本年中繼續スルトセバ約六、百萬人ノ損失アリト謂フベキデアル、又 Economist ハ、利用シ得ベキ最モヨキ材料ヨリ estimate シタト云ツテ居ルガ、其利用シ得ベキ最モヨキ材料ハ何デアルカ分ラヌ、或ハ各交戰國ノ發表シタル死亡表等ニヨリタルモ

ノカトモ思ヘル、果シテ然リトセバ其數ハ寧ロ最少限トモ見ルベキデ、實際ハ餘程コレ以上デア
ルト考ヘネバナラス、其理由ハ種々アル。

(1) 各交戰國ハ兵士ノ死亡確實トナラネバ之ヲ戰死者ノ中ニ入レズ、死亡セリヤ否ヤニ就テ疑ノ
アルハ勿論、十中八九死セルニ相違ナシト思ハレル者迄モ、行衛不明者トシテ居ル、故ニ行
衛不明者ノ中ニハ多クノ戰死者ノ含マレ居ルモノト考ヘネバナラス。

(2) 自國兵ガ敵國ニ俘虜トナツタ場合ニハ、其俘虜ノ消息ハ詳ニスルコト出來ヌ、然ルニ俘虜ト
ナツテ居ル間ニ死スルモノモ少クナイ。

(3) 各交戰國ノ軍事當局者ハ戰死者ノ數ヲ調べルニ怠ラナイデアラウガ併シ戰時中ハ到底精確ニ
調べラレルモノデナイ、戰場ヨリ中央ノ陸海軍省ニ至ル間ニハ洩レルガアリ、寫シ誤リガア
リ、其他種々ノ事情ガ出來ル 從テ死亡者ノ數ハ寧ロ少クナツテ現ハレ勝チデアル。

(4) 又各交戰國ノ當局者ハ精確ノ數ヲ知悉シテ居ルトスルモ、其實數ハ之ヲ公ニスルニ當テ控ヘ
目ニスル傾ガアル、何トナレバ餘リ死亡數ガ多ケレバ士氣ヲ損スルコト大ナルカラデアル。

以上ノ理由ニヨルト各交戰國カラ發表シタ戰死表ナドハ少キニ失シテ居ルト見ネバナラス、是
ハ Girault ノ夙ニ論破シタ所デアル、故ニ Economist ノ計算ガ此ノ如キ、材料ヲ根據トセルモノ
トセバ、戰爭ノクメニ死セル人ノ實數ハ尙遙ニ大ナリト見ネバナラス。

Girault ハ各交戰國ノ戰死者ヲ四百萬人ト見ルハ少キニ失ス、併シ千萬人ト見ルハ又大ニ失シ
テ居ル、真相ハ其中間ニアラント云フテ居ル、^{*}Girault ノ計算ハ昨年十一月末頃迄ノコトデ、今

Arthur Girault. La diminution de la population adulte male en Europe
* et ses conséquences économiques et sociales. Revue d'économie politique 29.e
Année no. 5 et 6. P.434-)
** op. cit P. 435

後トレ位死亡スルガハ考テ居ナイ。假リニ *Croat* ノ計算ニヨリ之ヲ月割勘定ニシテ今後ヲトゼン
ニ戦争ノ爲ニ一ヶ月ニ失ハルベキ人口ハ二十五萬人乃至六十二萬五千人トナルガ、其中間ヲトレ
バ四十三萬人トナル、戦争ガ本年中、繼續スルモノトスレバ千二百五十萬人ガ失ハレバナラヌ。
上述ノ戦死者ノ數ヲ割リ出ス方法ニヨレハ、戦争ガ終ル時迄ヲ計算ニ入レルコト出來ヌ、蓋シ孰
レモ戦争ハ何時終ル乎ト云フ問題ニカカツテ居ルノニ、其問題ヲ決セヌカラデアル、處ガ今回ノ戰
争ハ何時ドウシテ終ルカ殆ド見當ガツカナイ、初メ一人ガ皆交戰國ノ財政上ニ疲弊ガ來タトキ戰
争ガ止ムダラウト考ヘタガ、紙幣ヲ發シテ財政ヲヤツテ行クカラ、仲々財政上デハ弱リキラナイ
様デアル、次ニハ多クノ人ハ軍需品ノ絶ユルトキハ戦争ハ止ムデアラウト考ヘタ様デアツタガ、獨
逸側ハ軍需品ノ自給策ヲ講シ、聯合軍側ハ米國其他中立國ニモ仰ギ仲々軍需品デハ容易ニ參ラナ
イヤウデアル、併シ余ノ思フニ、兵卒ガ死シテ其跡ノ續カナイヤウニナルトキハ戰ハ自然ニ止モ
ウ、兵士ハ紙幣ノ如ク幾ラデモ作り出シ得ラヌノミナラズ又他國ヨリ借り又買テ來ルコトモ出
來ヌカラデアル、併シソウハ云フモノノ兵士ガ一人モナクナル迄戰ヲスルモノト云フベキデナイ、
少クトモ今日ノ戰線ヲ維持シ後方勤務ヲナスニ必要ナル兵員ヲ缺クニ至ルト、其之ヲ缺イタ方ガ
先ヅ屈服シ戰ハ自ラ止ムヤウニナラウ、ソコデ余ハ戦争ノ終ルトキニドレ位ノ壯丁ガ生キ殘ルカ
ト云フコトヲ考ヘテ見タイ、此觀點ニ立ツトキハ戦争ハ何時終ル乎ト云フコトヲ先決スル必要ガ
ナイ戦争ハ何時終熄シテモ議論ハ同シコトトナルカラデアル。

佛ノ *General Cousin* モ兵數ト云フ立場カラ議論ヲシテ戦争終了期ヲ本年六月ナリト豫言シテ

居ルガ、余ハ其結論ニ賛スルコト出來ナイ、併シ其觀察方法ニハ一種ノ眞理ヲ含シテ居ルト思フ、仍チ其材料ヲ借リテ來テ、余ノ議論ヲ打チ立テテ見ヤウ。

今交戰國ノ戰線ガ如何ニ長キニ亘ツテ居ルカヲ見ルニ、露國ハ一・二九〇基米、佛國ハ七四〇基米、伊國ハ五四〇基米、奧、塞ハ三二〇基米、塞勃ハ三〇〇基米、高加索ハ四〇〇基米、總計二・五〇〇基米デアル即チ約我四百里デアル、而シテ敵味方ハ此長キ戰線ニ立ツテ兵士ヲ排列シテ居ル、處ガ、一基米毎ニ幾何ノ兵士ガ排列セラレテ居ルカト云フニ、今日迄ノ實際ニ就テ見ルト、英佛軍ハ二千人位デ、獨逸軍ノ方デハ英佛軍ニ對シテハ一千七百六十五人、露軍ニ對シテハ一千六百六十二人、平均一千四百六十三人位デアル、獨軍ガ一番少イ。此計算カライフト、同盟軍ハ戰線ヲ維持スルニ三百六十萬人ヲ要スル、其外ニ後方勤務ニ二百五十萬人ヲ要スル、合計六百十萬人ヲ要スルコトニナル、聯合軍ハ實際之ヨリ多クヲ要シテ居ル、サウスルト同盟軍側デ生キ殘レル兵士ガ六百萬人以下ニ落ツルトキハ戰争ハ繼續スルコト出來ナクナルシ、聯合軍側デ生キ殘レル兵士ガ六百萬人以下ニ落ツルト戰争ハ尙更續ケルコト出來メト云ハチバナラヌ、今日ニ於テ各國ハ皆比較的年ノ寄レルモノ迄モ徵シテ居ル、獨逸ハ五十四歲迄ヲモ呼ビ寄セテ居リ、佛蘭西ハ五十五歲迄呼ビ寄セテ居ルト云フ、今兩軍ノ召集シ得ル人員ヲ見ルニ左ノ如クデアル。

英 佛 伊 國 國 國	聯 合 軍		同 盟 軍	
	全 人 口	百分比	全 人 口	百分比
英 國	1,500,000	五	4,000,000	二
佛 國	1,000,000	五	3,000,000	二
伊 國	500,000	五	1,000,000	二
國 國	1,000,000	五	1,000,000	二
國 國	1,000,000	五	1,000,000	二
獨 逸	1,000,000	五	1,000,000	二
奧 國	1,000,000	五	1,000,000	二
塞 勃	1,000,000	五	1,000,000	二
高 索	1,000,000	五	1,000,000	二
露 國	1,000,000	五	1,000,000	二

* Général Cousin, L'Usure allemande (Revue politique et parlementaire du 10 Novembre 1915. p. 161-172.)

以上ノ計算デ見レバ戰爭ガ終ル迄ニハ Girault ノ最大限ハ尙ホ之ヲ擴張セシバナラス。

戰爭ニヨル人ノ損失ヲ千五百萬人トスルモ、ソレハ不具者ヲモ數ヘテ居ル、不具者ハ經濟上カラ觀ルト死シタルモノト云ツテヨイ、併シ生理上ヨリ觀、食物ノ關係消費ノ關係ヨリ觀レバ、死シタモノデハナイ、故ニ不具者ヲ除キ生理上死亡シタルモノノミヲ見レバ千五百萬人ヨリ少シク差引カネバナナルマイ、ソレデ今回ノ戰爭ガ終決スル迄ニ實際ノ戰死者病死者ノ數ヲ千萬人以上ト見ルモ決シテ過大ニ失スルモノト云ヘマイ。

要之、今回ノ戰爭ニヨリテ失ハルベキ戰死者ノ數ハ千萬人乃至千五百萬人デアル之ヲ交戰國ノ人口ヨリ見ルト正ニ百分二半若クハ百分三ニ當ル、是レ丈ハ戰爭ニヨリテ直接ニ人口ガ減スルモノト云ハネバナラス。

第二 戰時ノ人口補充力

戰爭ノ爲ニ多數ノ人ガ死亡スルコトハ前段述フルガ如クデアルガ、併シ他方ニハ戰爭中ニハ人ノ出產モアル、從テ缺ケル人口ヲ補ヒ得ルカラ人口ノ減少ヲ來サナイモノデハナイカト云フ疑ガ起ル、ソコデ先ツ戰時ノ人口補充力ヲ考テ見ネバナラス。

戰時ノ人口補充力ヲ研究セントセバ、戰時ノ出生數ヲ考ヘタ丈デハ足ラス、戰爭ニ由ラズシテ死亡スル人ノ數モ考ヘネバナラス、此出生ノ數ガ戰爭ニ因ラズシテ死亡スル數ニ超過スルトキハ、ソレ丈ハ戰時ノ人口補充力ト見ルコトガ出來ル、處デ、戰時ノ出生數并ニ戰爭ニ因ラザル死亡數

ハ各國ノ公ニセル統計ナケレバ、之ヲ精確ニ知ルコト出來ヌ、戰前ノ出生死亡ニ徴シテ見ルヨリ外ナイ、今最近統計（一九二二年ヲ主トシ、其之ナキモノハ一九一〇年又ハ一九一一年ニヨル）ニヨリ交戰國ノ出生死亡并ニ人口ノ増加ヲ見ルニ左ノ如クデアル。

	聯合軍側									
	英吉利	蘇蘭	愛蘭	佛國	伊國	（一九一〇） 白耳義	（一九一〇） 露國	合計	交戰國兩側總計	
生出產	八七、七六七	一三、七三六	一〇、〇三三	七〇、〇八一	一、二三、八九五	一、二一、八〇一	五、六、〇、〇六〇	八、八、八、八、八	一、二、三、四、五	一、二、三、四、五
死亡	四、六、八六七	一、七、三三三	三、二一八	六、九、〇三〇	六、三、七、八八	三、三、八、四四	五、九、六、二二	五、九、九、七四	六、七、八、九、〇	六、七、八、九、〇
増加	八三、〇八〇	一二、〇〇三	六、八一五	六三、一五一	五、六、五、一〇七	八八、四五六	一、七、三、八三八	二、八、三、九一三	五、六、七、八、九	五、六、七、八、九
全人口	三、六、五、九、六六六	一、七、七、七、七〇〇	一、六、二、二、二二二	三、六、五、九、六六六	一、七、七、七、七〇〇	一、七、七、七、七〇〇	二、八、三、九、一三三	二、八、三、九、一三三	三、六、五、九、六六六	三、六、五、九、六六六
増加率千人ニ付	一〇、五	一〇、五	一〇、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一〇、五	一〇、五
	同盟軍側									
	獨逸	奧地利	匈牙利	（一九一〇） 勃牙利	合計					
生出產	一、七、七、七〇〇	二〇、五、五五五	七、五、五五五	一、七、七、七〇〇	二、七、七、七〇〇	一、二、三、四、五	六、七、八、九、〇	五、六、七、八、九	四、五、六、七、八	三、四、五、六、七
死亡	一、〇、〇、〇〇〇	五、五、五五五	二、二、二二二	一、〇、〇、〇〇〇	二、七、七、七〇〇	一、二、三、四、五	六、七、八、九、〇	五、六、七、八、九	四、五、六、七、八	三、四、五、六、七
増加	七、七、七〇〇	一五、〇、〇〇〇	五、三、三三三	七、七、七〇〇	一、〇、〇、〇〇〇	一、二、三、四、五	六、七、八、九、〇	五、六、七、八、九	四、五、六、七、八	三、四、五、六、七
全人口	一、七、七、七〇〇	二、〇、五、五五五	七、五、五五五	一、七、七、七〇〇	二、七、七、七〇〇	一、二、三、四、五	六、七、八、九、〇	五、六、七、八、九	四、五、六、七、八	三、四、五、六、七
増加率	一、一、一〇〇	一〇、五	一、一、一〇〇	一、一、一〇〇	一、一、一〇〇	一、二、三、四、五	六、七、八、九、〇	五、六、七、八、九	四、五、六、七、八	三、四、五、六、七

（註）此表ハ余ガ政治年鑑、獨逸伊ノ統計年鑑ニヨリテ計上シタルモノデアアル。*

此表デ見ルト戰前ニ於ケル人口ノ増加ハ一年四百三十萬人ニ上テ居ル、若シ戰時ニナリテモ出生ト死亡トガ之ト同様ニ進テ行クナラバ、戰爭ガ二年デ止メバ人口ノ減少ヲ補充シ得ナイガ三四年續ケバ人口ノ減少ヲ補充シ得ルトモ云ヘル。處ガ戰時ノ出生數ハ戰前ノ出生數ヨリモ大ニ減セ、ネバナラヌ、蓋シ十七八歳ヨリ五十四五歳ノ男子ガ出征セルガ故ニ其妻タルモノハ家ニ居ルモ、

* The Statesman's Year-Book. 1914.
Statistisches Jahrbuch für das Deutsche Reich.
Österreichisches Statistisches Handbuch.

妊娠ノ機會ヲ得ナイカラデアル、而シテ出征軍人ハ一九一四年ヨリハ一九一五年ニ多ク、一九一五年ヨリハ一九一六年ニ多クナリ順々ニ進テ行テ戰ノ終ル年ニハ三千二百萬人ノ多キニ達スル、然ラバ一九一五年ノ出產ハ平年ヨリモ少クナルベク、一九一六年ノ出產ハ之ヨリ更ニ少クナルベク、一九一八年ノ出產ハ尙一層少クナリ行クノデアラウ、之ニ反シテ死亡率ガ減少スルカト云フニ戰爭中出產ノ少キ爲メ最モ死亡率ノ大ナルベキ乳兒少ク、多少死亡率ヲ減スル力ガ働テ來ルデアラウケレトモ、他方ニハ戰時中衛生充分ニ行届カズ又ハ榮養物ヲ十分ニトリ得ナイガ爲メニ死亡ヲ多クスル勢力モ侮ルベカラサルモノガアル、故ニ死亡ノ數ハ戰時ニ於テ増スコトアルモ減スルコトナシト謂ツタ方ガ無難デアル。

サウシテ觀レハ戰爭ガ續ケバ續ク程人口補充力ハ愈々少クナリ、人口減少ノ度ハ益々甚シクナリテ行クト謂ハネバナラヌ。

以上論スル所ニ據テ之ヲ見ルト、戰爭ニヨリテ失ハルベキ人口ハ、少クトモ全人口ノ百分二半若クハ百分ノ三トナルベク、之ヲ補フ力ハ、戰時ニ於テ之ナク、戰爭續クコト長ケレバ、戰爭ニ關係セサル方面ノ人口モ減シテ行カウ、斯クシテ戰時ニ於ケル人口ノ缺陷ハ全人口ノ百分四トナリ百分五トナリ次第ニ進テ行クデアラウ。

第三 戰後ノ人口補充力

次ニ戰後ノ人口補充力ハドウナルカト云フニ、是レハ仲々六ケ敷イ問題デアル、從來學者ハ戰

後ニ於テ人口ハ速ニ恢復スルコトヲ説イテ居ル、Roscherモ亦原則トシテ之ヲ認メ、戰場ニヨリテ失ハレタル人口ハ出生ノ増加ニヨリテ容易ニ之ヲ補充スルコトヲ得ルモノデアル、只、生活支持ノ根源ヲ減スルニ至ルガ如キ戰爭ノミガ人口ヲ減少スルモノデアル、例ヘバ和蘭ハ長ク西班牙ト戰フタケレドモソレガ爲メ富ヲ増スコトトナツタカラ人口ヲモ増スニ至ツタガ、短カノ間Cromwellト戰フタケレドモ商業ヲ萎靡セシムルコトニナツタカラ大ニ人口ヲ減少シタト云ツテ居ル。*

成程經濟上ノ損失ヲ來ス戰爭ト利益ヲ生スル戰爭トハ人口増殖ノ上ニ及ボス影響大ニ異ルデアラウ、併シ乍ラ今回ノ戰爭ハ總テノ交戰國ガ經濟上利益ヲ受ケタト云フコト出來マイ、ヨシ一二ノ國ガサウ云フ影響ヲ受ケタトシテモ多數ハ反對ノ影響ヲ受クルモノデアルト見ルベキデアラウ、故ニRoscherノ説ニ從フテモ戰後ノ人口恢復力ハ速ナリト云ヒ得ナイ、假リニ一步ヲ譲リテ戰後生活支持ノ根源ガ少シモ減セラレナカツタトスルモ、人口恢復力ハRoscherノ原則トシテ認メル様ニ速デアルマイ、ソレハ第一ニ今回ノ戰爭ガ昔ノ戰爭ト異ルコトヲ知ラチバナラヌ、今回ノ爭ハ其戰線ノ長キニ於テ、其殺人具ノ備ハレルニ於テ、過去ノ戰ノ比デナイ、從テ其人ノ死セ、ル數モ極テ多イ、獨佛戰爭デ獨逸兵ノ死シタル兵員ハ四萬四千八百九十人ニ過キナカツタト云フノニ今回獨逸ノ兵ノ死亡數ハ既ニ少クトモ百萬ニ達シテ居ルト云フデハナイカ、戰死者ガ多ケレバ其妻女タリシモノハ再婚スルニ非サレバ長ヘニ妊娠ノ機會ヲ逸スルモノト謂ハチバナラヌ、サスレバ人口ノ恢復ハ急ニ行クマイ。

第二ニ戰後ニナリテ結婚ハ多分増スデアラウガ、サリトテ無暗ニ多クナルマイ、何故ナレバ壯

年者デ戦死シタルモノ多クレバ妙齡ノ女子アルモ結婚ノ相手方ガ少ナルカラデアル。

第三、ニハ結婚ガ多ク出来タトシテモ婦人ノ産兒力ガ大デナケレバ人口ノ恢復力ハ大ナリト云フコトヲ得マイ、然ルニ目下戦ヲ交ヘツツアル諸國ノ實際ニ徴スルニ近來婦人ノ産兒力ハ次第ニ衰ヘツツアル様デアル、ソレニハ先ツ是等ノ諸國ノ人口増加ハ何ニ原因セルカラ調ベテ見ル必要ガアル。

今、最近六七十年ニ於ケル人口動態統計ヲトリテ見ルニ實ニ左ノ如クデアル、(十年ナ平均シ、毎年千人ニ付)

英 蘭				蘇 蘭				愛 蘭				佛 蘭 西			
結 婚	生 出 産	死 亡	増 加	結 婚	生 出 産	死 亡	増 加	結 婚	生 出 産	死 亡	増 加	結 婚	生 出 産	死 亡	増 加
一八四一年 一五〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八四一年 一五〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八四一年 一五〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八四一年 一五〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六
一八五一年 一六〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八五一年 一六〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八五一年 一六〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八五一年 一六〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六
一八六一年 一七〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八六一年 一七〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八六一年 一七〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八六一年 一七〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六
一八七一年 一八〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八七一年 一八〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八七一年 一八〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八七一年 一八〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六
一八八一年 一九〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八八一年 一九〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八八一年 一九〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八八一年 一九〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六
一八九一年 一九〇〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八九一年 一九〇〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八九一年 一九〇〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一八九一年 一九〇〇年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六
一九〇一年 一九一一年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一九〇一年 一九一一年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一九〇一年 一九一一年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六	一九〇一年 一九一一年	一六六 一六六	一六六 一六六	一六六 一六六

[illegible]

新 牙 利	結 婚		生 出 産		死 亡		増 加
	増 加	死 亡	増 加	死 亡	増 加	死 亡	
	1,686	1,938	3,868	3,118	3,670	3,352	3,328

(註) 統計表ハ Jackel Remhold 氏ノ研究ナ骨子トシ之ニ英ノ政治年鑑、獨逸伊等ノ統計年鑑ヲ參照シテ計上セルモノデア
ル伊國 Achille Necco ノ研究ニモルト多少、數字ニ相違ノアル所モアルが大體ニ於テ同シキモノガアル參考ノ爲ニ之ヲモ茲ニ
紹介シテ置カヌ。

	英 蘭	蘇 蘭	愛 蘭	佛 蘭 西	伊 太 利	白 耳 義	露 西 亞	獨 逸	奧 地 利	匈 牙 利
出 生	2,721	2,768	3,237	2,038	3,348	2,612	3,577	3,397	3,477	3,707
死 亡	1,528	1,628	1,788	1,928	2,128	1,688	2,228	1,868	2,358	2,528
増 加	1,193	1,140	1,449	1,110	1,220	924	1,349	1,529	1,119	1,179

此表ニヨリテ觀ルト交戰諸國ニ於テハ從來結婚ノ數ハ多少減スルノ傾ナキニアラチド、出產數
ニ至テハ著シク減シツアル、佛、白、匈ノ如キ最近二三十年間結婚數ハ増シテ居ルニ拘ハラズ、
生出產數ハ却テ大ニ減シテ居ル、產兒力カ大ニ衰ヘタト云ハチバナラヌ、交戰國中人口増加ノ大ナ
ルモノアルモ、ソレハ出生ノ大ナルヨリ來テ居ラナイデ却テ死亡率ノ少クナツタニ因リテ居ル、
獨、奧、匈、英、蘇、伊、白ノ如キ其好例證デアル、要スルニ歐洲諸國ニテハ最近ニ至リ產兒力ハ大
ニ減退シタコトハ爭フコト出來ヌ。

此產兒力ノ衰ヘタ時ニ當リテ戰爭ガ起リ無暗矢鱈ニ人ヲ殺シ人口ニ缺陷ヲ生ジテ居ル、戰後ニ
ナリテ產兒力ハ多少大トナリテ來ルカモ知レヌケレドモ、慢性病トナリテ居ルモノガ急ニ面目ヲ
改メルト云フコトハ到底信スルコト出來ヌ、之ニ反シテ戰後ニ於ケル死亡率ハ如何ニナリ行クカ

* Die Geburten-Heirats-Sterbe-und Geburtenüberschussziffern in den hauptsächlichsten Kulturstaaten der Welt (Jahrbücher für National-ökonomie u. Statistik 103. Bd 1. Heft S. 86-90.)

** Problema della popolazione in Italia (La Riforma Sociale. Giugno-Luglio 1913. N. 125-126)

ト云フニ、戰前ヨリモ遙ニ減少スルモノト想像スルコト出來ヌ、何トナレハ最モ死亡率ノ少カルヘキ中年ノ人が少クナリテ死ノ神ニ襲ハレ易イ老人小供ガ比較的ニ多クナルカラデアル。是ニ由テ之ヲ觀レハ、戰後ノ人口ハ戰前ヨリモ大ニ減少スベク、之ヲ放任スルトキハ、急ニ恢復シナイモノデアルト斷セテハナラス。

第四 人口減少ノ分析

既ニ述ヘタルガ如ク戰後ニハ、人口減少ルガ、之ヲ全體ノ人口ヨリ見レバ、百分ノ三トカ或ハ百分ノ四トカ五トカトナリテ仕舞ツテ、左シタルコトモナイ様デアルガ、併シ、ソレガ爲メニ人口減少ノ意義ヲ闕却シテハナラス、人口減少ノ意義ヲ明ニスルニハ尙少シ人口減少ト云フ事實ヲ分析シテ見テバナラス、即チ人口ノ減少ハ如何ナル年齡ノ階級ニ起ルモノデアルカ、其階級ニ於ケル男女ノ比例ガ之ガ爲ニ如何ニ亂サレルデアラウカ、又他ノ年齡ノ階級トノ比例ガ之ガ爲メニ如何ニ變スルデアラウカヲ調べテハナラス。

戰爭中兵士ノ家ニ居ラサル爲メニ、出生數ガ減ズルシ又戰爭デ兵士ガ死スルヨリ父トナルベキ人ヲ減スルガ爲メニ戰時并ニ戰後暫クノ間ハ少クトモ出生數ヲ減ズル、從テ乳兒階級ガ減少スルコトトモナラウ、併シ乍ラ其最モ減少ノ著シキハ戰死者ノ屬スル階級ニ於テ之ヲ見ルニ相違ナイ。一、今戰爭デ死亡シタルモノニ就テ考テ見ルニ是レ皆十七八歲位ヨリ五十四五歲ニ至ル迄ノ男子デアル、即チ一國人口ノ中デ最モ强健ナル分子ニ屬スルモノデアル、ソレガ死シテ仕舞フノデア

ルカラ、一國ノ經濟上社會上ニ及ボス影響ハ決シテ少シトセナイ、ソレヲ明ニスルニハ、戦死者ヲ中年ノ男子ノ全數ニ比較シテ見ネバナラス、ソレニハ中年ノ男子ガ幾何アルカラ知ラネバナラス。戰鬪ニ加ハツテ居ル兵士ハ十七八歳ヨリ五十四五歳迄ニ亘テ居ルカラ、十七歳ヨリ五十五歳迄ノ年齢ノ人ガ全體ノ人口ノ中ニドレ位居ルカラ見ネバナラス、然ルニ此ノ如キハ各國ノ統計ノ基礎ノ資料ヲ得ナケレバ算出シ得ヌ、全體ノ人口中ニ二十歳以上六十歳以下ノ人ガドレ位居ルカニ就テハ既ニ學者ノ勞作ノ結果ニナレルモノガアル、十七歳乃至五十五歳ト二十歳乃至六十歳ハ多少異ルガ大體ニ於テハ近イカラ之ヲ借リル。諸學者ノ研究ニヨレバ、人口千人ニ付キ二十歳乃至六十歳ノモノ獨逸デハ四七九(四七二)奧國デハ四七〇(四八五)佛國デハ五二九(五二五)伊國デハ四五一(四九六)英國デハ四七九(四七三)デアル、サウスルト二十歳乃至六十歳ハ全人口ノ半分乃至四割五分ヲ占メテ居ル、而シテ此中ニハ女モ加ハツテ居ル、處ガ歐洲デハ下ニ説クガ如ク女ハ男ヨリ一割乃至一分五厘モ多イ、計算ノ便宜ノ爲メニ男女ハ相半シテ居ルト見ルト二十歳乃至六十歳ノ男子ハ全人口ノ約四分ノ一ヲ占ムルモノト云テヨイ、然ルニ交戰國ノ人口ハ總計四億四千百萬人ニ達シテ居ル(註)故ニ交戰國ニ於ケル二十歳乃至六十歳ノ男子ハ約一億餘萬人アリト云ハネバナラス。約一億餘萬人ノ中ニ就キ千五百萬人モ死ヌルト、其割合ハ一割半ニモ當ル、最モ强健ナル分子ハ一割半ヲ奪フト云フコトガ分ルト、戦後ノ人口ハ、痛切ナル打撃ヲ被ルモノト云ハネバナラス。

(註) 九頁表、英佛伊白露獨奧匈勃ノ人口總計ハ四一七、二四二、八八六、デアルガ、之ニ土耳其ノ二、二七三、九〇〇人塞爾維三、九一七、七〇一、黑山國五一六、〇〇〇ヲ累計スレハ、四四一、九六七、〇五七、トナル。

* Frh. v. Fircks, Bevölkerungslehre und Bevölkerungspolitik S. 69.
Conrad, Statistik. 3 Aufl. S. 84.
Schmoller Grundriss der allgemeinen Volkswirtschaftslehre I. T. 7-10.
Tausend. S. 161.

二、戦争ハ社會ノ中堅タル男子ノ一割半モ薙キ倒ス、戦争後中年ノ數ハ大ニ減ズル、シコデ女子トノ關係ヲ考テ見ネバナラス。

歐洲デハ平素カラ女子ハ大體ニ於テ男子ヨリ多イ、併シ其程度ハ多少異ル、今二十歳乃至六十歳ノ階級ニ就テ男子ト女子トヲ比較スルト、男子千人ニ付キ女子ノ數獨逸デハ千四十人、英國デハ千九十七人、佛ニテハ千十四人デアル、サレバ平時ニ於テ女子ノ男子ニ超過スルコトハ、一割乃至一分五厘デアル、然ルニ、今戦争ニヨリテ男子ノ數ハ俄カニ、一割半ヲモ減スルノデアルカラ、女子ノ男子ニ超過スル數ハ非常ニ多クナリ、甚ダシキハ二割五分、ニモ及ブ國ガ出來テ來ヤウ、男ガ四人居レバ、女ハ五人居ルト云フ譯、女五人集レバ、其中ニ一人ハ寡婦カ、然サレバ、結婚ノ相手ヲ見出サス處女ガアルト云フコトトナル。

三、歐洲戦争後人口ノ少クナルト云フコトハ男子ガ女子ニ對シテ少クナルノミナラズ、中年ノ人ガ老年ノ人、幼年ノ人ニ對シテ從前ヨリモ少クナルト云フコトニナル、既ニ前ニモ述タ通り一國社會ニハ二十歳乃至六十歳ノモノガ約半分居ル、然ルニ戦争ハ中年男子ノ一割半ヲモ薙ギ倒スガ老年ノ人、幼年ノ人ヲ殺スモノデナイ、サウスルト一國社會ノ中堅タル中年者ハ甚シク全人口ノ半分以下ニ落チ、老年者幼年者ハ之ニ比シテ著シク半數ヲ超ユルコトトナリ、人口ノ組立テニ大變化ヲ生ジテ來ル。

要スルニ戦争ノ人口ニ於テハ弱イ人間、不生産的ノ人間ノ色彩ガ最も濃ク現ハレテ來ルト謂ハネバナラス。

* Conrad. a. a. O. S. 83

Conrad ハ十歳毎ニ一級ヲ設ケテ居ルノチ平均シテ此數字ヲ出シタ

第二欸 歐洲戰後人口減少ノ結果

歐洲戰後ニ於テハ中年ノ男子ガ減少シ、女子老人幼年者ノ色彩ガ濃ク現ハレ來ルコトハ前ニ述ベシカ如クナルガ、ソレヨリシテ經濟上ニモ社會上ニモ更ニ進ンデイヘバ歐洲ノ文明ノ上ニモ一大變革ヲ生ズルコトトナラウ、余ハ其最モ重大ナルモノニ就テ少シク論ジテ見ヤウ。

第一、人口減少ノ經濟上ニ及ボス影響

中年ノ男子ガ比較的少クナルト云フコトハ働クモノガ少クナルト云フコトデアル、故ニ經濟上ノ打撃ハ到底免ルルコトヲ得マイ、労働者ハ農工商業ニ亘リ、大體ニ足ラナクナリハスマイカ、歐洲ニ於テハ戰前ハ失職問題ガ重大デアツタガ戰後ニハ労働者ヲ得ルト云フ問題ガ緊要トナルマイカト思ハレル。

中年労働者ノ絶對數ノ減少ヨリイヘバ、労働ノ不足ハ之ヲ爭フノ餘地ガナイ、處ガ労働不足ト云フニハ又労働ノ需要ヨリモ觀察セネバナラス、若シ労働ノ需要ガ中年労働者ノ減ジタル以上ニ減ズルモノナランニハ労働ノ不足ハ起リ得ナイ、然ラバ戰後労働ノ需要ハ労働者ノ減ジタル以上ニ減ズルカト云フニサウデアルマイ、余ガ見ル所ヲ以テスレバ戰後ニハ労働需要ハ大ニ増シ來ルニ相違ナイ、蓋シ戰爭中長イ間各人ハ不自由ヲシ節約ヲナシテ居ツタモノデアルカラ、戰後ニナレバ色々ノ享樂ヲ抑ヘルコト出來ナクナラウ、ソレニ戰時ハ巨額ノ紙幣ガ濫發セラレ、ソレガ社會

ノ隅々迄行キ渡ツテ居ルカラ各人ニ購買力モアルノデアル、故ニ戦後ハ事業界ガ非常ノ活氣ヲ帶ビテ來ルニ相違ナイと思フ、ソレニ政府モ戦後經營トシテ城壘ヲ修理シ、兵器ヲ新調シ、軍艦ヲ再建シ、鐵道ヲ修築スル等色々ノ事業ヲナサネバナナルマイ、從テ勞働ノ需要ハ戰時ヨリモ遙ニ増スト云ハネバナラス。

此ノ如ク戦後勞働ノ需要ハ増シテ來ルガ、勞働者ノ數ハ前述ヘタ如クニ激減スル、故ニ大體ノ勞働ノ不足ガ起リ、如何ニ勞働ヲ得ンカト云フ問題ガ緊要トナリテ來ルノデアル。

戦後ノ勞働不足ハ少クトモ戦後景氣ノ湧キ立ツベキ數年ノ間ニ於テ、最モ著シク感セラルルコトデアラウ、此勞働界ノ大勢ハ戰爭終了後極メテ短日月ノ間ニ於ケル勞働界ノ大勢ト混同シテハナラス、戰爭ガ濟ミタトテ經濟事業ガ直ニ其日ヨリ起ルモノトハ云ヘヌ、從テ勞働ノ需要ハ急ニ激増スルモノト言フコト出來ヌ、然ルニ他方ニハ兵士ノ歸リ來ルガアリテ、勞働ノ供給ハ激増スル故ニ一時失職問題ヲ起サストモ限ラヌ、戦後ノ準備ヲ怠レル國ニ於テハ或ハ之ヲ免レヌカモ知レス、交戰國ニテハ戦後準備ニ汲々タルモノアル様デアルカラ失職問題ヲ惹起セヌ様ニ心掛けテ行クノデアラウ、Oppenheimerノ如キ此地ニ立チテ國家ハ戰時ニ於テ勞働ヲ節約シ、戦後兵士ノ歸リ來ル時ニ有リ餘レル勞働ヲ用ヒ行カネバナラスト説テ居ル、獨逸ガOppenheimerノ言ニ聽カバ、戦後兵士ノ一時ニ歸リ來ルコトアルモ失職問題ヲ生スルコトナカラウ。

戦後兵士ノ歸還ニヨリテ失職ヲ生スルカ否カハ各國戦後準備如何ニヨリテ大ニ異ル、併シ假令失職者ヲ生スルニシテモ其失職ハ久シキニ彌ルモノデナイ、蓋シ事業ガ次第ニ起リテ勞働ノ需要

ヲ増スニ至ルカラデアル、斯クシテ戰後ニ於ケル事業熱勃興時代ハ勞働ノ不足ヲ生シ如何ニシテ勞働ヲ得ンカノ問題ヲ惹起シテ來ルニ相遠ナイ。

勞働者ヲ如何ニシテ得ルカト云フ問題ニナルト其解決ハ多クアルベキデナイ、其第一ハ老人ヤ幼年ヨリ得、其二ハ婦人ヨリ得、其三ハ外國ヨリ得ル、是ニ於テ老人勞働少年勞働婦人職業ノ問題ヲ生シ又移住ノ問題ヲ生ズ。

少年老年并ニ婦女子ヲ中年勞働者ノ補缺トシテ採用スルコトハ現ニ戰時ニ於テ著シクアラハレテ居ル、以テ戰後ヲトスル一資料トスルコトガ出來ル、ソコデ戰時ノ少年老年婦女勞働ニ就テ觀察ヲ加ヘネバナラヌ、コハ何レノ國ニ於テモ之ヲ見ルコトデアルガ、獨逸ノ實際ハ最モ參考ニナルト思フ、故ニ是等ノ諸問題ノ觀察ニ於テハ獨逸ヲ引合ニ出シテ見ヤウ。

一、少年勞働老年勞働

少年老年女子ノ中デ第一番ニ採用セラルルハ少年デアル殊ニ十五歲以上ノ少年ニ至テハ殆ド壯年勞働者ニ代ハリ得ルモノデアル、戰時ノ勞働界ハ現ニ之ヲ證明シテ居ル、故ニ此少年勞働者ハ戰後ニ於テモ中年勞働者ノ缺陷ヲ滿タスニ相違アルマイ、併シ乍ラ餘リ若キ人ヲ壯年勞働者ノ競争トシテ使用スルハ社會政策ニ矛盾スルコトナル、故ニ勞働者トシテ採リ得ルモノハ壯年ニ近ケルモノニ止メネバナラヌ、ソコデ少年勞働者ノ補充力ニハ餘リ多クヲ期待シ得ラレヌコトトナル。

次に老人労働ニ就テ考フルニ、是レ亦中年労働ヲ補フ力ニ乏シト云ハ子バナラヌ、六十歳以上ノ人ハ到底激シキ労働ニ服スルコト出来ナイ、又身輕ニ進退スルコトモ出来難クナルカラ、工場労働者トシテ器械ノ番ヲナムニモ不適當トナル、故ニ企業家ハ可成此種ノ労働者ヲ厭フコトナルデアラウ、現ニ獨逸戰時ノ經濟界ニ就テ之ヲ見ルニ企業家ハ既ニ四十年以上ノ労働者ヲ使用スルコトヲ好マナイ、他ニハ失職者ナクナリテ居ルニカカワラズ此老人労働者ニハ久シキ間失職者ガアツタコトニヨリテモ其一端ヲ知ルコトガ出来ル、然レドモ労働者ノ缺乏ガ愈々大ナルニ及デ是等ノ老人労働者モ次第二使用セラルルニ至ツタト云フコトデアル、戰後ニ於テモ老人労働者ハ依然採用セラルルデアラウガ、壯年労働者ヲ補充スル力ニ至テハ最モ劣ルモノデアルト云ハネバナラヌ。

二、婦人労働

婦女子ニ就テ之ヲ見ルニ、中年ノ男子ノ労働者ヲ補フ力ハ可ナリニアルト思ヘル、中年男子ノ少クナレル爲ニ結婚ノ相手方ヲ見出シ得ナイ女ハ少クナイ、是等ノ女子ハ一生、生家ニ止マリテ親兄弟ノ役介物トナラネバナルマイ、然ラサレバ出デテ職業ヲトラネバナラヌ、工場ニ出デテ働カネバナラヌ、戰爭ニヨリテ夫ヤ親兄弟ヲ失ヘル女子モ亦同様ニ自活ノ道ヲ講ゼネバナラヌモノ少クアルマイ、是ニ於テ女子職業問題ハ戰後ニ於テ愈々緊要ナル問題トナルデアラウ、戰後男子ハ労働者ガ大ニ減ズレバ女子ガ之ニ代リテ行クコトモ自然ニ道ガ開ケテ行クデアラウ、然ラバ如何ナ

* Silbermann. Die Verschiebungen auf dem Arbeitsmarkt während des Krieges (Zeitschrift für Sozialwissenschaft N. F. VI. Jahrgang Heft 12. S. 768-769.

ル方面ニ於テ女子ハ男子ニ代ルデアラウカ、此問題ヲ解決スルガ爲ニ少シク獨逸ノ戰時ニ於ケル女子職業ノ實際ヲ引合ニ出シテ見ヤウ。

何レノ國ニモ起ツタコトデアルガ獨逸ニ於テモ戰爭勃發後、勞働者ノ失職問題ガ起ツタ、女子ニ就テモ職業ヲ失フモノ少カラズアツタ、殊ニ商業使用人タリシモノニ於テ甚シカツタ、是等ハ裁縫編物ニ向ハント押シ懸ケ、又ハ赤十字社其他救護隊ニテ働カント押シ寄セタ位デアツタ、然ルニ後兵士ノ召集セラルルモノ多キヲ加フルニ從テ、失職ハ全體ノ上ニ次第ニ少クナリ、却テ勞働者ガ足りナクナリ、從來男子中年ノ勞働者ノ働テ居ツタ所ニ十五歳以上ノ少年ガ代テ入ルコトニナリ、其次ニ女子ガ代ハリニ入ル様ニナツタ、其中ニハ戰爭ニヨツテ失職シタ女子モアルガ、出征軍人ノ妻女デ新ニ之ニ加ハリテ來タモノモアル、而シテ此等ノ女子ハ先ヅ交通機關ニアラハレタ、電車ノ車掌トナリ停留所ノ切符賣トナリ其男子勞働者ノ爲シテ居ツタコトニ代ハツタ、次ニ是等ノ女子ハ工業ノ範圍ニモアラハレタ、工業ノ中デモ、纖維工業ノ如キモノニ女工ノ多ク存スルノハ敢テ不思議デナイガ、モット似ツカワシカラヌ工業ニ這入ツタ、金屬工業ノ如キ其一例デアル、併シ金屬工業ノ中ニアリテモ女子ハ比較的腕力ヲ要シナイ輕イ仕事ニ就イタ、例ヘバ自動機械押印機械旋盤機ノ傍ニ立テ爲ス勞働ノ如キデアル、伯林勞働仲介所ノ報告ニヨレバ此等ノ外、女子ハ化學工業(丸藥製造等ノ勞働)馬具製造業、被服業(火熨斗チカケル勞働、綿チ入レル勞働)ニ於テ職ヲ得タルモノ多ク又火ヲ焚ク人トナリ、昇降機ノ番人トナリ、石炭荷積人トナツタト云フコトデアル。

此等ハ皆熟練ヲ要セス又容易ニ習ヒ得ル仕事デアルガ、兎ニモ角ニモ從來男子ノ爲シテ居ツタ仕事デアル、女子ハ今其範圍ニ這入ツテ來タノデアル。(註一)

工業ニ於テ女子ガ男子ニ代ハルハ比較的困難ナルコトナルガ割合ニ容易ナルハ商業デアル、商業ニ於テハ女子ハ反物衣服奢侈品等ノ賣子トシテ能ク適シテ居ルガ、此ノ如キ商業ハ戰爭ニヨリテ打撃ヲ受ケタ、食料品、享樂品ノ商業ハ榮エテ居ルモノダカラ、女子ハ男子ニ代リ、其處ニ賣子トナリテアラハレタ

次ニ帳場ニ於ケル勞働ニ就テハ記帳通信ノ事務ニ於テ女子ハ直ニ男子ニ代ツタ、從前ニ於ケル女子ハ既ニ此範圍ニ這入ツテ居ツタノデアルカラ、代ハルコトハ容易デアツタ、之ニ反シテ簿記ニハ從來殆ド男子ノミ用ヒラレテ居ツタ爲メカ、女子ノ代ハルコトハ困難デアツタ、併シソレニモ拘ラズ多クノ女子ハ此缺陷ヲ滿タス爲メニ現ハレテ出タ、從來餘リ多ク使用セラレナカツタ銀行等ニモ多ク使用セララルニ至ツタ。

商業ニ於テハ此ノ如ク女子ハ賣子トシテモ事務員トシテモ男子ニ代ツタガ其最モ甚シキハ後ノ場合デアル、(註二)蓋シ記帳通信會計等ノコトハ女子ノ少シク教育ヲ受ケタルモノニハ六ヶ敷イコトデナイカラデアル、從テ從來ノ商業ニ於テ女子ハ此方面ニ發展シタノミナラズ、戰爭ノ爲ニ起サレタ戰時會社ニモ大ニ發展シテ居ル、然ルニ是等ハ商業ノミニ止ラナイデ官廳ニ於テモ亦同様に採用スルニ至ツタ。

此外教育方面ニ關シテモ女教師ガ男教師ニ代ツテ居ル、只女子ノ侵入セント試ミテ今ニ成效セ

一九一五年ノ表デ之ヲ見ルト女子ノ賣子ノ紹介數ハ餘リ異テ居ナイニ、男子ハ大ニ減シテ居ル、女子ガ男子ニ代ハル度合ノ少キヲ見ルベキデアアル、事務員ニ就テハ男子ノガハ大ニ減シテ居ルガ、女子ノハ少シ減シテ居ル、併シ戰爭勃發ノ前ニ於ケルモノト一九一五年ノ同期ニ於ケルモノトナ比較スルニ明カニ男子ノハ大ニ減シ女子ノハ大ニ増シテ居ルノヲ見ルベキデアアル。

戰爭ガ終熄シタ後ハ女子ノ代ツタ仕事ヲ再ビ男子ニ還スデアラウカ、Silbermannハ電車ノ車掌、窓ノ掃除人等ノ仕事ハ再ビ男子ノ手ニ復歸スルガ其他ノモノハ今日ヨリ豫言シ得ズト云フテ居ル。

余ノ思フニ戰爭終熄スレバ戰場ニ在ルモノハ歸リ來リテ經濟業務ニ就クノデアアルカラ、勞働者ノ數ハ今日ヨリモ増スコト疑ナイ、從テ、兵士ノ歸リ來ル當座ハ、或ハ勞働ノ供給ニ過剩ヲ生スルカモ知ラスガ、總テ他方ニ於テハ事業モ増シテ行キ、勞働ノ需要更ニ大トナツテ來ルデアラウト云フコトハ既ニ述ヘタ通りデアアル、是ニ至ルト軍隊歸リ來ルモ尙戰前ニ比シ男子勞働者ハ不足ヲ告グルデアラウ、女子ガ一旦得タル地位ニ嚙リ付テ之ヲ放サヌコトモ亦出來ル、勿論中ニハ女子ノ得タル職業ニハ不恰好ノモノモアル、從テ兵士ガ歸レバ之ヲ男子ニ還スモノモ出來テ來ルコト疑ナイ、併シ大體ニ於テ女子ガ戰前ノ執リタル職業ニ侵入シ來ルコトハ豫想ニ難クナイ。

戰後ニ於テ女子ガ全然經濟上男子ノ領内ニ這入ツテ退カヌトスルト、其處ニ又種々ノ問題ガ起ラウ、男子丈ナラバ勞働ノ不足ヲ生スベキニ、女子ノ侵シ來レルガ爲メニ或ハ男子ノ失職者ヲ生セヌトモ限ラヌ、ソレヲ氣ニシテ男子勞働者ノ方カラ議論ヲナスモノサヘ生シテ居ル、或ハ女子ハ男子ヨリモ御シ易キカ故ニ資本家ハ女子勞働者ヲ得ルニヨリテ、同盟罷工其他勞働者ノ團結ニヨル抵抗ヲ避ケルコトヲ得ラレヤウト云フモノガアルガ、多少ソウ云フ傾向モ出來ルカモ知レヌ、併シサウ云フヤウニナルト女子ノ團體ヤラ運動ヤラガ起ラヌトモ限ラヌ、女子參政權ノ運動ガ女

子勞働界ニアラハレルト云フ譯、併シ此ノ如キ社會ガ幸福デアルカ否カハ一ノ大ナル疑問ト云ハネバナラス。

三 移民問題

中年勞働者ノ缺陷ハ少年勞働者老年勞働者婦人勞働者ニヨリテ多少之ヲ補ヒ得ルガ既ニ論シタ通り少年勞働老年勞働ノ補充力ハ餘リ多クヲ望ムコト出來ヌ、女子勞働ニ至テハ前已ニ述ヘタ通りドシ／＼色々ノ難カシキ仕事ニ這入ツテ來ヤウケレドモ、ソレニハ自ラ限りガアラウ、採鑛冶金、建築工業、器械製造業等ノ膂力ヲ要スルモノハ大體ニ於テ女子ノ物デハアルマイシ、又化學工業印刷業ノ如キ頭ヲ要スルモノハ大體ニ於テ女子ノ這入り得ナイ所カト思ハレル。ソコデ一方ニハ自國ノ勞働者ヲ維持シ他方ニハ他國ノ勞働者ヲ入レルト云フ問題ガ起リ來ラサルヲ得、マ、自國ノ勞働者ヲ維持スルト云フハ自國勞働者ノ移住ヲ制限スルコトナリテ來ナケレバナナス、他國ノ勞働者ヲ入レルト云フハ外人ノ來住ヲ促スコトナリテ來ナケレバナナス、處ガ今日ノ歐洲ニテ大國ト云フ大國ハ皆戰ツテ居ル、從テ多クノ人ヲ殺シテ居ル、戰ハナイ國ト云ヘバ少シノ小國ニ過ギヌ、是等ノ小國ハ戰後ニ於テ大國ニ勞働者ヲ供給スルノ力ガ十分デナイ、尤モ交戰國中デモ外國ニ勞働者ヲ供給シ得ルカト思ハレルモノ全クナイデハナイ、伊ノ如キ露ノ如キ其一例デアアル、伊ノ在外勞働者ハ戰爭ノ爲ニ歸リ來レルモノ少カラズアツタ故ニ戰後ニナリテ多少佛獨ノ方面ニ出稼クモノナイトハ云ハレヌ、只戰後ニ於ケル伊國ノ事業勃興ノ程度如何ニヨリテ

出稼モ亦大ニ異リテ來ヤウ、モシ内國ノ勞働者ガ十分ニナイト見レバ政府ハ出稼ニ手加減ヲ加フルニ至ルハ火ヲ靚ルヨリモ明デアル、勞働者ヲ送り出ス國ニ於テ既ニ然リ、人民ノ少イ國、又工業ノ盛ナル國ハ手加減ヲ加フルコト更ニ甚シカラウ佛獨英ノ如キ其一例デアル。

移住ヲ制限シ來住ヲ歡迎スルハ中年男子ニ於テ之ヲイフコトデアル、全體人口ノ減少ヲ氣ニセナイ國ニアリテハ婦女子ノ移住ハ之ヲ歡フカモ知レヌ蓋シ戰爭ニヨリテ寡婦ヤ嫁入りノ相手方ヲ見出シ得ヌ處女等ガ多ク出來タ、之ヲ海外ニ放ツハ却テ重荷ヲ輕フスルコトトモナルデアラウ、故ニ國ニヨリテハ婦女子ヲ驅リテ殖民地ニ送ルト云フ政策ヲトラヌトモ限ラヌ、米國ノ如キ婦人ノ少キ所デハ之ヲ歡迎スルカモ測ラレヌ。

要之戰後各交戰國ハ婦女子ノ移住ヲ妨ゲヌコトハアリ得ヤウガ、中年ノ男子勞働者ヲ送り出スコトハ之ヲ差控ヘルニ至ラウ、而シテ之ガ爲メニ影響ヲ受ケルモノハ亞米利加デアル、殊ニ合衆國ハ從來西南歐ヨリ多ク移民ヲ吸收シテ居ツタ、戰後ハ其移民ノ數ハ大ニ減ズルモノト見ネバナラヌ、戰時ニ於テ既ニ其徵候ヲアラハシテ居ルデナイカ、米田講師ハ此等事實ヨリ推シテ合衆國ハ移民ノ少キニ窮シ終ニ日本移民ノ制限ヲトクニ至ルデアラウトノ意見ヲ持タレテ居ル、亦一見識タルヲ失ハナイト思フ。

上述ノ如ク、歐洲戰後ニ中年者ノ減少スルト云フコトハ、勞働者ガ少クナルコトデアツテ、勞賃ガ上ガルコトトナリ、女子ガ此範圍ニ這入ツテ來ルコトニナリ、外國勞働者ガ這入ツテ來ルコトニナル、ソレデモ、必ズシモ熟練ナル勞働者、頭ノアル勞働者ヲ得ラレヌカラ、仕事ノ種類ニヨ

リテハ大ニ苦ムデアラウ、是レハ戰後ニ於ケル歐洲經濟界ノ大打撃デアルト斷セネバナラス、移民問題ニナルト、當ニ歐洲交戰國ノ問題タルニ止ラズ全世界ノ問題トモナラウ。

第二 人口減少ノ社會的影響

中年ノ人ノ少クナルコトハ以上述べタルガ如ク經濟上ニ大影響ヲ及ボスモノデアルガ又社會上其他ノ關係ニ於テモ非常ノ影響ヲ及ボスモノデアル、今回ノ戰爭デ一番ニ戰線上ニ立ツタモノハ、最モ强健ナル分子デアアル、當ニ腕力ニ於テイミナラズ、知力ニ於テモ優レタモノデアアル、ソレガ死スルノデアアル、智識ニ富ミ其專問ニ於テ將來大ニ發揮セントスル青年ガ死スルノデアアル、發明モアツタモノデナク、文明史上ノ仕事モアツタモノデナイ、Giraude^{*}ノ云ベルガ如ク、Adieu les découvertes et les chefs-d'œuvres futurs ト叫ハザルヲ得ナイ、將來二十年ハ學問上ノ產物ハ大ニ減ズルデアアラウ歐洲ノ青年ハ少クトモ將來十年間ハヨキ教育ヲ受クルコト出來マイ、果シテ然ラバ歐洲文明ノ光ハ多少暗ラギテ來ズニハ居ラレマイ、之レハ既ニ河上博士モ喝破シタ所デアアル。次ギニ前ニ述べタ通り中年男女ノ間ノ權衡ガ戰爭ニヨリテ打テ破ラルルニ至ル、ソレヨリシテ社會上重大ナル結果ヲ生ズル、若シ一夫一婦ヲ以テ天然ノ法則デアルトシ、人道デアルトスルナラバ、戰爭ハ人ヲシテ天然ノ法則ニ反シ、人道ニ反セシムルニナルモノト云ハネバナラヌ、三十年戰爭後ニハ一時トハイヘ獨逸ニハ一夫多妻主義ガ輸入セラレタデハナイカ、余ハ敢テ今回ノ歐洲戰爭ノ後ニ、一夫多妻主義ガ行ハルト云フコトヲ云ハントスルモノニアラネド、配偶者ヲ得ザ

* op. cit. P. 442

** 戰後ニ於ケル世界ノ文明(本誌大典記念號)

ル多クノ婦女子ノ存スルコトハ斷ジテ社會ノ幸デアルマイト考ヘザルヲ得ナイ。

配偶者ヲ得ザル多クノ婦女子ガアルト、自然ニ御轉婆ガ出來ヤウ、女權擴張論者乃至女子參政權論者降テハ我國ノ新シキ女ノ様ナモノガ輩出シテ來ヤウ、女性カ男性カ但シハ中性カ分ラヌモノガ出テ來ヤウ、精神的ニ男性トナリテモ生理的ニ女性デ止マリテ居レバ、ドウシテモ其間ニ腐敗ガ生ゼザルヲ得マイ。是ニ於テ戰後ノ風教問題ハ重大ナル問題トナツテ來ヤウ。

人口減少ノ社會的影響ハ尙幾ラモ想像スルコトガ出來ルガ、余ガ重キヲ置ク所茲ニ存セザレバ、深クハ論ゼナイ。

第三欸 戰後ニ於ケル人口政策

以上論スル所ニ據テ之ヲ觀レバ歐洲戰後ニハ人口ガ減ズル、而モ女子ニ對シテ男子ノ數ガ減ズル、老幼ニ對シテ中年ノ數ガ減ズル、ソレヨリシテ經濟上社會上色々ノ問題ガ起ル、婦人職業問題、勞働者ノ問題、移民問題、教育風教ノ問題、文明ノ問題等頻々ニ重要ノ問題ガ起ラウ、是等ノ問題ハソレ自身ニ於テ重要デアルガ、皆戰後ノ人口ヨリ出發シテ行クモノデアルカラ、戰後人口問題ハ更ニ重要デアルト謂ハネバナラス。

加之、各國ハ戰後經營ヲヤルデアラウ、強健ナル青年ヲ要スルコト愈々切トナリテ來ヤウ、ソコデ軍人側ハ人口問題ニ苦心スルコトトナラウ。

歐洲戰後、諸國ニ於テハ人口問題ガ重要ニナツテ來ルニ相違ナイ、從テ諸國ハ之ヲ解決スルニ

苦心スルヤウニナラウ、如何ニ苦心スルカト云フコトヲ見ル前ニ、戰後人口ノ減少ハ長續キスルモノカ但シ一時的ノモノデアルカト云フコトヲ問題トセザルヲ得ナイ、學者ニヨレハ戰後人口減少ハ一時的ノモノデアルト云フモノガアルケレドモ、ソレハ、サウ行クマイト云フコトハ既ニ第一款第二ニ於テ論ジタル通りデアル、即チ放任シテ置クト、人口ノ減少ハ容易ニ恢復シナイト見ルベキデアル、果シテ然ラハ戰後ニ於テハ、何レノ國モ人口増加ノ方策ヲ講セネバナルマイ、殊ニ戰前人口ノ増加ヲナサナカッタ國ニ於テ然リトスル、佛國ハ其標本デアル、佛國ノ政治家、學者ハ戰前ニ於テ既ニ佛國ノ人口ノ増加セサルヲ憂ヒ其救済ヲ考ヘテ居ッタ、Bertillonノ如キハ此ノ如キ人口ノ狀態デハ佛國ハ三百年後ハ三等國トナリ、五百年後ニハ消エ失セテ仕舞ハウト絶叫シタ位デアル、此ノ如ク志士ハ佛國民ヲ警告シ盛ニ人口増加ヲ劃策シタガ佛國ノ人口ハ仲々ニ殖エヌ、ソナ時モ時、佛國ハ圖ラズモ戰爭ノ渦中ニ入りテ一時ニ多數ノ中年者ヲ失フコトニナツタ、人口増加ハ愚カ、戰爭ニ失フタ人口ノ恢復カ一寸見込附カナクナツテ來タ、ソコデ戰後ニハ如何ニ人口ヲ増加シ如何ニ人口ヲ恢復センカト云フ思想ト政策トガ愈々勢ヲ得愈々實行セラルルニ至ラウ。

人口増加ノ盛ナル國ニ於テモ戰後人口ノ恢復力ハ決シテ樂觀ヲ許スマイ、ソレハ前ニモ述ベタ通り、人口増加ノ盛ナル國ニ於テモ、其人口ノ増加ハ出生率ノ増加ヨリ來ラズシテ死亡率ノ減少ヨリ來テ居ル、然ルニ戰後ニハ死亡率ハ餘リ減少スマイガ出生率ハ増スベキ望少ナイ、ソコデ從來人口増加ノ盛ナリシ國迄ガ戰後ニ於テハ新ニ人口増加策ニ苦心スルヤウニ至ラウ。

戰後人口増加ヲ策スルニ於テ佛國ニ後レヲ取ラザルハ恐ラク獨逸デアラウ、獨逸ハ西歐中歐ニ

* Jacques Bertillon, La dépopulation de la France
Paul Leroy-Beaulieu, La question de la Population.

於テハ從來人口増加ノ最モ盛ナル國デアツタ、然ルニ、近來獨逸人ハ非常ニ人口問題ヲ氣ニシ出シタ、ソレト云フモ獨逸人ノ出生率ガ大ニ減ジタカラデアアル、獨逸ノ出生率ハ一八七一年後多少減少シツツハアツタガ、併シ、一八七一年ヨリ一九〇〇年ニ至ル迄ニハ、僅ニ七分七厘位ノモノニ過キナカツタ、此期間ニ於テ出生率減少ノ割合ハ英國ノハ一割五分五厘デアリ佛國ノハ一割二分六厘デアツタ、故ニ獨逸ノ産兒力ハ是等一等國ニ對シテ遙ニ優勢ヲ示シテ居ツタ、然ルニ一九〇〇年頃ヨリ獨逸ノ産兒力ハ非常ニ衰ヘ初メ最近ニ至リ急轉直下ノ勢トナツテ來タ、最近國勢調査ノ結果ガ公表セラレテヨリ以來産兒力減退ニ關スル議論ガ沸騰シテ來タ、之ニ關スル著書論文ハ雨後ノ筍ノ如クニ出テ、一九一一年ヨリ一九一四年ニ至ル僅ニ三年間デ既ニ二百十六ニ達シタコ云フ、以テ獨逸人ガ如何ニ産兒力ノ減衰ヲ氣ニシテ居ルカラ窺フニ足リル、戦前産兒力ノ衰ヘタコト此ノ如シトスルト戦争ニヨリテ多數ノ中年者ガ死シタル後ノ産兒力ハ更ニ大ニ衰ヘネバナルマイ、獨逸人ハ戦後ニ於テ之ヲ重大ノ一問題トセスニハ居ルマイ、否戦後ト云ハズ、既ニ戦時中ニ於テ獨逸ノ有識者ハ人口政策學會 (Deutsche Gesellschaft für Bevölkerungspolitik) ナルモノヲ樹テ人口政策ヲ研究セントシツツアルト云フコトデアル。

此獨逸人口政策會ハ昨年十月十八日初會ヲ伯林ニ開イタ、Julius Wolf 教授ガ其會長ニ選ハレタト云フ、其宣言書ノ中ニ同會ノ目的トスル所ガアルガ、ソレヲ見ルニ實ニ左ノ如キモノガアル。

Die Gesellschaft hofft, den Gesinnungen, welche die Familie früher zureicher, sein liessen, neue Freunde zu gewinnen, nicht weniger aber Gesetzgebung und Verwaltung von der Notwendigkeit energischen Eingreifens überzeugen zu können.

* Deutsches Statistisches Zentralblatt (März-Mai 1914)

* Zeitschrift für Sozialwissenschaft N. F. VI, Jahrgang. Heft 11. S. 747-8

Aufgabe der Gesellschaft wird danach sein, bei dem deutschen Volke dahin zu wirken, dass es nicht in die Bahnen einer Kinderbeschränkung einlenkt, die sich dem Ganzen als verhängnisvoll erweist. Um aber den minderbemittelten Teilen der Bevölkerung die durch eine zahlreiche Familie entstehenden Soregn zu erleichtern, will sie dahin streben, dass die Kosten der Nachkommenschaft gerechter als bisher verteilt, Ledige, Kinderlose und Kinderarme zur Unterstützung der Kinderreichen herangezogen werden.

Nicht minder will sie es sich angelegen sein lassen, die nationale Wichtigkeit des Hausfrauenberufes nachdrücklich zu betonen und die Erziehung der weiblichen Jugend nach dieser Richtung besonders zu fordern. Mancherlei Unzuträglichkeiten des Grossstadtlebens will sie abzuhelpen suchen und durch Förderung der inneren Kolonisation dafür sorgen, dass Ansiedlungsmöglichkeiten über die heute vorhandenen hinaus geschaffen werden.

Die Gesellschaft will sich aber nicht mit einer blossen Bekämpfung der gewollten Kinderlosigkeit und Kinderarmut begnügen, sie beabsichtigt auch der ungewollten so wuchtig wie irgend möglich zu begegnen. So wird sie die auf Bekämpfung der Geschlechtskrankheiten gehenden Bestrebungen tatkräftig unterstützen, ihnen neue Kräfte dienstbar zu machen suchen wie für weitgehenden Schutz der Frauen und Mädchen gegen Schädigungen durch gewerbliche Arbeit sich einsetzen, einen wirksamen Mutterschutz, die Vervollkommenung der Entbindungshilfe, der Wöchnerinnenpflege u. a. m. fördern.

Der Volkszahl hofft die Gesellschaft schliesslich dadurch zu dienen, dass sie dafür sorgt, die Lebensfähigen unter den Geborenen nach Möglichkeit am Leben zu erhalten. Auf ihrem Programm steht danach auch eine umfassende Säuglings und Jugendfürsorge.

此 Program ヲ見テモ小供ヲ殖ヤスト云フコトヲ眼目トシテ居ル、小供ヲ殖ヤサントセハ子供ヲ生マスヤウニシ、既ニ生メベ之ヲ育ツル様ニセザバナラス、第一ニ産兒制限ヲナスニ至ラナイ様ニセザバナラス、ソコダ貧乏人ノ子澤山ナルモノノ負擔ハ重ケレハ之ヲ結婚セザルモノ、子ナキモノ、子少ナキモノヲシテ助ケシムルヤウニ努メント云フ案ガ出テ來、婦女子ヲシテ妻トナ

リ母トナリテ安シスル様ニ教育シ、大都生活ノ缺點ヲ矯メ、内地殖民ノ道ヲ講セント云フ案ガ出テ來ル、第二ニハ子ヲ産ムノ障礙トナルベキモノヲ撤セ子バナラヌ、ソコデ花柳病豫防、工女ノ保護、助産并ニ産婦保養ニ關シテ完備ヲ期スト云フ案ガ出テ來ル、第三ニハ既ニ生レタル子ヲシテ生ヲ全フセシメ子バナラヌ、乳兒并ニ少年ノ世話ヲ爲スト云フ案ガ出テ來ル譯デアル。

是レハ獨逸ノ一學會ノ Program ニ過キナイガ、併シ獨逸人ガ戰後ニ於テ如何ニ人口問題ヲ解決センカト云フ思想ヲ暗示シテ居ルモノト見ルコトガ出來ヤウ、豈啻ニ獨逸人ノ思想ノミト云ハシヤ、戰爭ニヨリテ多クノ人口ヲ失ツタ國ハ皆、此ノ如キ方向ニ考ヲ進テ戰後ノ人口政策ヲ立ツルニ至ラウ。

此ノ如ク戰後ニ於テハ歐洲諸國ハ皆人口ヲ如何ニ増サンカト云フコトニ苦心スルヤウニナルカト思ハレルガ、又他ノ方面ヨリ觀レバ徒ニ量ノ多キヲ求メタ丈デハ足ラヌ、實ノ優レタルモノヲ得ナケレバナナルマイ、サウデナケレバ、歐洲ノ文明ハ又昔日ノ如ク盛ナルコトヲ得ナイカラデア、是ニ於テ歐洲戰後ノ人口政策ハ優種學ノ見地ヨリモ之ヲ策セ子バナラヌコトニナラウ、處デ、茲ニ困ツタコトハ、戰爭ニ因テ失ハレル人ハ、體力ニ於テモ、智力ニ於テモ優レタ人デ、戰後ニ生キ殘レル人ハ體力ニ於テモ、智力ニ於テモ劣ツタ人デアルコトデア、尤モ十五六歳以下ノ少年ハ總テ壯年トナリ人ノ父トナルヤウニナラウケレドモ、其之ヲ教育スルニ最モ適セル人ガ戰場ノ露ト消エテ仕舞ツタカラ今日ノ少年モ教育ノ不完全ナルヨリ最モ優等ナル人トハナレマイ、此クシテ戰後ニ父トナルベキモノハ大體ニ於テ戰前ニ比シ、劣ツタ人トナル、此劣ツタ人ヲシテ如

何ニシテ優レタ子ヲ産マシメ得ル乎、是レガ亦戰後ノ人口政策ニ於テ重要ナル問題トナツテ來ルニ相違ナイ、強健ナル兵士ヲ得ントスルノ軍人、優レタル勞働者ヲ得ントスル企業家、健全ナル國民ヲ得ントスル政治家ハ此點ニ於テ一致セシバナラヌ。併シ此點ニ於テ十分ニ目的ヲ達スルコトハ容易ノ業デアアルマイ。

× × × × × × × ×

以上余ハ歐洲戰後ニ於テ人口ノ減少スベキヲ明ニシ、ソレヨリシテ人口ノ組立ニ異常ノ變化ヲ來シ、經濟上、社會上ニ、少カラス影響ヲ及ボスベキコトヲ説キ、ソレガ爲メニ色々ノ重要ナル問題ヲ惹キ起スベキコトヲ論シタ、其種々ノ重要ナル問題ハ、ソレ自身ニ於テ、別個ノ研究ヲ要スヘキモノデアアル、從テ余ノ論シタコトハ只起ルベキ問題ニ就テ暗示ヲナシタニ過ギス、併シ之ヨリ生スル結論ハ、決シテ輕ンズヘキモノデナイ、其結論トハ外デモナイ、戰後ニ於ケル人口政策デアアル、蓋シ種々ノ重要ナル問題ヲ解決スルニハ其源ニ溯リ、戰爭ニ因テ生シタ人口ノ減少ヲ恢復セシバナラヌカラデアアル、然ラバ其戰後ニ於ケル人口政策ハ如何ト云フニ、人口増加ト云フコト、如何ニ優レタル人ヲ増サンカト云フコトニ歸着スル、是ニ至テ戰後ノ人口問題ハ、人口ノ多キニ窮スルト云フ問題デナク、却テ其反對ニ向テ走ル問題デアアルコトヲ知ルヘキデアアル、まるさすヲ地下ニ起シ之ヲ見セシメタナラバ、夫レ之ヲ何ト云フデアラウカ。